

雪対策のあゆみ

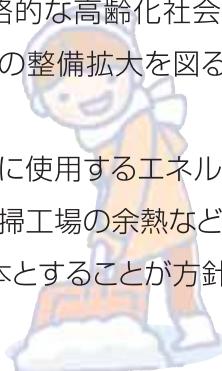
雪さっぽろ21計画

平成3年に策定した「雪さっぽろ21計画」は右肩上がりの経済予測を背景としており、除排雪のレベルアップを主眼に置いた計画でした。

しかしながら、都市化の進展によって、除排雪需要の増加と雪を処理するための都市空間容量の減少が顕在化してきました。

そこで、機械による除排雪以外の手法として、新たな投資が困難となる本格的な高齢化社会が到来するまでに、雪対策施設の整備拡大を図ることとしました。

また、雪対策施設で融雪に使用するエネルギーは河川水や下水処理水、清掃工場の余熱などの地域エネルギーの活用を基本とすることが方針として示されました。

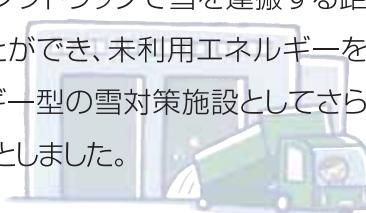


札幌市雪対策基本計画

平成12年に策定した「札幌市雪対策基本計画」は「冬期道路交通の円滑化」「パートナーシップによる冬期生活環境の充実」「人と環境にやさしい雪対策の実現」の3つを基本方針として定めました。

「人と環境にやさしい雪対策の実現」の中では、除排雪の効率化をはじめ、地域で雪処理を行うことができるシステムの確立や未利用エネルギーを活用した融雪システムの整備を進めることとしました。

このような位置づけの中で、雪対策施設は市街地の比較的狭い面積で大量の雪を処理することができるところから、ダンプトラックで雪を運搬する距離の短縮も図ることができ、未利用エネルギーを活用した省エネルギー型の雪対策施設としてさらに整備を進めることとしました。



冬のみちづくりプラン

経済・社会情勢の急激な変化により、札幌市の雪対策は「雪たい積場の遠隔化」や「除雪事業者の経営体力の低下」など様々な問題を抱えています。

そこで、雪対策事業を今後も安定的に継続するため、平成21年11月に「札幌市冬のみちづくりプラン」を策定しました。

このプランの中では、流雪溝の利用促進など、既存の雪対策施設のさらなる活用を図ることとしています。

流雪溝

沿線住民の利用促進に向けた啓発活動の強化

融雪施設

下水処理水など、未利用エネルギーの有効活用の推進

雪さっぽろ21計画

雪対策施設の整備拡大

札幌市雪対策基本計画

環境に配慮した融雪システムの整備

冬のみちづくりプラン

既存施設の有効活用